

屋内プログラム

活動名	(3) キャンドルのつどい			
内容	ろうソクの炎を囲み、ゲームや歌などの出し物（スタンツ）で親睦を深めます。厳粛で神聖な雰囲気の中で実施すると、自己を見つめるよい機会にもなります。キャンプファイヤーの雨天時の代替プログラムにもなります。			
条件	場所	プレイホール、学習室1、 オリエンテーション室 別館大広間、クラフト棟1階	対象	小学生以上
	時間	1時間～1.5時間	人数	20～200人
	時期	通年	天候	天候にかかわらず可能
期待される教育効果	(1) スタンツを通し、友情と親睦を深める。 (2) 厳粛で神聖な雰囲気の中で、自分の心を見つめ直す。 (3) 企画や運営を通して、リーダー性や協力する心を育む。			
準備物	自然の家が貸し出す物		団体が準備する物	
	<input type="checkbox"/> 火の神(女神)の衣装、杖 <input type="checkbox"/> 延長コード <input type="checkbox"/> CDデッキ <input type="checkbox"/> ポータブルアンプ、マイク <input type="checkbox"/> 燭台(使用料がかかります)		<input type="checkbox"/> 動きやすい服装(長袖、長ズボン) <input type="checkbox"/> 体育館シューズ(プレイホールの場合) <input type="checkbox"/> 音楽CD <input type="checkbox"/> マッチ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 救急用品 <input type="checkbox"/> ろうソク <input type="checkbox"/> アルミホイル(ろうそくを手で持つ場合) <input type="checkbox"/> 燭台使用料(ろうそく大4本含む)	
展開	1. 事前（準備） (1) 当日までに下見を行い、貸出物品、危険個所等を把握する。 (2) 当日の進行やスタッフの役割分担、練習等を行う。 2. 活動前 (1) 代表者は17時までに事務室で無線機と貸出物品を受け取る。 (2) 必要に応じて売店でろうそく等を購入する。 ※燭台を使用する場合はろうそく(大)を受け取る。 (3) 会場にシートと燭台を設置する。 (4) 会場に集合し、点呼、健康観察及び安全指導を行う。 3. 活動 (1) 別掲の「展開例」を参考に、団体独自の活動を行う。 4. 事後（片付け） (1) 火の消し忘れがないか確認する。 (2) 燭台とシートを元の場所へ戻し、 (3) 床に落ちたろうそくを片付ける。			
安全管理ポイント	<input type="checkbox"/> 引率者の目の届く範囲で活動をさせる。 <input type="checkbox"/> ろうそくが皮膚に落ちたり、火が衣服に燃え移ったりしないよう指導する。 <input type="checkbox"/> 周囲が暗いので、転倒等に気を付けさせる。 <input type="checkbox"/> 火事を防ぐため、火の管理を確実にを行う。			

キャンドルのつどい実施の手引き	
引率者の心構え	<p>1. ねらいを明確にした活動計画を作りましょう 「何のために実施するのか」「どのように活用するのか」など、活動のねらいをはっきりさせて計画を作りましょう。</p> <p>2. 引率者（団体の責任者）は必ず事前の下見を行いましょう 下見をすることで、的確な指導法の発案などに役立ちます。</p> <p>3. 活動における注意事項を徹底するための事前説明（学習）を行いましょう 火を扱う活動には危険を伴う場合があることや、活動のねらいをしっかりと伝えるためにも、事前説明を行いましょう。</p> <p>4. 事後学習の機会を設けましょう キャンドルのつどいで築かれた人間関係など、ねらいに合わせた振り返りをしましょう。</p>
安全な活動のための準備	<p>1. 服装、装備 (1) 長袖、長ズボン、防寒具の着用 ・ろうや火によるやけどを防ぐため、長袖、長ズボンを着用しましょう。 ・自然の家周辺の気温は、平地に比べ約3℃低くなります。体調を崩さないように、防寒具を準備しましょう。</p> <p>2. 事故に備えての対応 (1) 傷病者が出た場合、誰がどのように対応するかを事前に決めておきます。 (2) 引率者は、絶えず参加者の健康状態を確認することが大切です。</p>
来所前に指導していただきたいこと	<p>(1) 活動前に服装などをお互いに点検する。 (2) 活動中は、集団行動をとる。 ・単独行動は、やけどやけが等の原因になります。 (3) 防寒着をこまめに脱いだり着たりして、体温調節を心がける。</p>

キャンドルのつどいの準備と片付け		
1. 準備について		
(1) 	(2) 	(3) 
17 時までに事務室で貸出物品を受け取ります。 音効機材や衣装等の借用品も、17 時までにお申し出ください。	必要に応じて売店でろうそくやアルミホイルを購入します。 燭台を使用する場合は、ろうそく(大)を受け取ります。	①カーテンや暗幕を閉めます。 ②シートを会場の中央に敷き、その上に燭台を移動させます。
(4) 	<p>①不足しているろうそく(大)を交換します。</p> <p>②「火の守」の人数分のろうそくを『ろう受け』ごと燭台から抜きます。 ※点火後に戻しやすいろうそくを選びます。</p> <p>③ろうそくを手を持つ場合は、アルミホイルで『ろう受け』を必要なだけ作成します。 ※「ろう受け」を付けずに素手でろうそくを持つと、たれたろうでやけどをする恐れがあります。</p>	

2. 実施中について

(1) 火をうつす方法



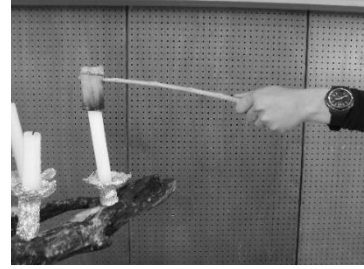
ろうがたれないように、火がついていない方のろうそくを傾けて火をうつします。

(2) 注意事項

- ・やけどに注意しましょう。
 - ・シートや燭台以外の所（床など）にろうを落とさないように注意してください。
- ※床などにろうを落とした際は、事務室まで連絡してください。

3. 片付けについて

(1) 消火について



「ひしゃく」を使って、確実に火を消してください。